

流行と経済の関係性について

村上 尚之 田口 恵也 江尻 侑加 田中 佑季 中山 このみ 星島 朋実

要旨

景気の良し悪しがファッションにどのような影響を与えるのか、バブル絶頂期の1980年代とを比較して調査した。その結果景気が良いと身体に密着したスタイルが流行し、景気が悪いと身体のラインを隠すようなスタイルが流行するなど、ファッションが経済に大きく影響を与えていることがわかった。

キーワード：流行，ファッション，景気，バブル

1 序論

1991年3月、バブル経済が崩壊し、2008年アメリカでリーマンショックが起きた。世界中の経済が混乱し、日本にも「100年に一度の不景気」が訪れた。そのような状況においても、世界では様々なモノが流行し、特にファッションの分野では季節ごとに続々と新たな商品が販売された。もはやファッションが経済に与える影響は計り知れない。そこで、経済がファッションにどのような影響を与えるのかという疑問を、バブル絶頂で好景気な1980年代と不景気である現在を比較して調べた。また、調べるうちに「景気が良いとスカート丈が短くなる」という説が出てきたので、この説が正しいかどうかを前述の判断基準とすることとした。

2 仮説の設定

【疑問】 景気の良し悪しはファッションに影響を与えるのか。

【仮説】 景気はファッションに影響を与える。

3 検証方法

文献調査を行い、当時の経済状況、流行のスタイル・ファッションを現代のものと比較する。

4 結果

	1980年代	1990年代	2000年代	2010年代
経済状況	バブル景気	バブル崩壊	格差社会	
流行のスタイル・ファッション	ボディコン		ひざ丈タイトスカート	マキシ丈

一方、現代はマキシ丈(くるぶしが隠れるほどの長さ)のスカートが流行している。さらに、ボディコンとは正反対の身体のシルエットを隠すようなスタイルが若い世代を中心に特定の年代で流行するなどバブル期とは大きく異なっている。

このように経済はファッションに影響を与えているように思われる。

5 結論

ファッションと経済の関係性は上記の通りとなった。

また、この研究を進めていくにあたり、最も大きな収穫はファッションの流行の特徴をみつけることができたということである。その特徴とは「流行は繰り返す」ことだ。これは、昔から言われてきたことであるが、我々はその周期がほぼ一定であることに気がついた。その周期は約20年である。以上のことからバブル期のように短い丈で、体のラインを強調するようなファッションがあと10年以内に流行する可能性があるということである。これを今後の服選びに生かしてみることを提案したい。

謝辞

本研究に当たり、資料をご提供いただき、アドバイザーとして熱心にご指導いただいた岡山県立倉敷天城高等学校の 渡辺裕子 先生に感謝いたします。

【参考文献・参考 Web ページ】

- ・ 渡辺明日香：ストリートファッション論，産業能率大学出版部
- ・ ウイング北陸総合医療商業協同組合：ファッション百貨・知っておきたいお役立ち雑学
- ・ Honkawa date tribune：社会実情データ図録・経済成長率の推移